

1. 開催日時 平成24年12月20日(木) 午前10時～11時05分
2. 開催場所 ロワジールホテル函館 3階「琥珀」
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議事の結果内容

定刻、事務局より総会開会を告げ、本日の出席者数を報告し、規約に基づき会員の半数以上が出席していることから総会は有効に成立する旨述べる。

続いて、永井会長より開会の挨拶が行われた後、規約に基づき議長に同氏を選出し、議事に入る。

#### 議案第1号 函館市中心市街地活性化基本計画(案)について

函館市経済部阿部参事3級より、別添資料に基づき説明がなされた後、下記のとおり、質疑応答がなされた。

##### (小林淳哉：函館工業高等専門学校)

- ・ 歩行者通行量について、平日に比べ休日の方が両地区ともに少ないという調査結果になっているが、休日及び平日ともに増やそうという案はあるのか。五稜郭地区においては、休日の方が多いと思っていたが、私のイメージとは逆の傾向になっている。

##### (入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)

- ・ 歩行者通行量については、現状の買い物客の動向を表していると思われる。商業活性化も大事であるが、まずは、それぞれの地区で、市民からのニーズも高く、かつ核となるような公共施設等をきっちりと整備しなければならないと考えている。そこで、駅前地区においては、子育て支援施設、五稜郭地区においては、旧グルメシティ跡地を活用しての若年層をターゲットとした施設等を整備することにより、市民が来街し、そして近隣の各個店を回遊するといったような流れを作りたい。
- ・ これらの施設については、平日休日ともに、オープンさせようと思っているが、特に、平日休日ともに増やそうというところに視点はもっていない。

##### (渡辺良三：(株)はこだてティーエムオー)

- ・ 現在進行形で進んでいる事業もあると思われるが、進捗状況について教えていただきたい。

##### (入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)

- ・ 駅前通りからグリーンプラザにかけてのトータルデザインについては、既に施行者と契約済みで、来年3月までには成果を上げたいと考えている。計画自体は来年4月1日からとなっているが、出来るところから既に着手しており、中でも、再開発事業については、国の保証を活用して今年度の調査費等が付いているものもある。来年からは、国の交付金が利用できるもので、順次掲げた事業に着手していきたい。前段階としてはかなり進んでいると思うが、まだ、街の風景として見えていないのが実状である。

**(渡辺良三：株はこだてティーエムオー)**

- ・ 例えば、駅前を花で飾る事業は非常に好評であったが、その計画とか、また、A街区の経過等を教えていただきたい。

**(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)**

- ・ 駅前の花いっぱい事業については、単年度の予算措置だが基本計画の中にも掲載しており、来年度も実施することとなっている。A街区については、現在、事業者サイドと条件面を詰めているところであり、確定した後、基本計画に修正・追加という形で掲載する予定である。基本的に、現時点で事業者及び事業内容が確定していないものについては、基本計画に掲載することができない。

**(中野豊：新都心五稜郭協議会)**

- ・ 各個店の皆様が、どのような形でこの基本計画に関わってくるのか、また、市民の意識の低さをどのような形で高めていくのか。将来的なまちづくりの中で、人の回遊性を高める交通インフラとして新幹線があるが、新幹線新函館駅と中心市街地間の交通インフラについて、具体的に触れた方がよいのでないか。

**(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)**

- ・ 本協議会は審議機関であるが、別途、市主導で中心市街地活性化懇話会という会を随時開催しており、商店街の方々に対しても、これまで基本計画素案及び原案等を説明してきている。市の別枠の予算で組織しているはこだて雇用創造推進協議会でも、新規創業者向けに起業家の育成講座やセミナーを開催しており、その中でも、基本計画における各種支援措置の周知を図っていくなど、今後、より一層広く積極的にPRしていきたい。
- ・ 3年後の新幹線開業を見据え、本年、市では総合交通を担当する課を新設しており、来年を目途に全体的な市内の交通アクセスを構築していくこととなっている。この部分に関しては、新幹線機構とも連携の上、来年度の計画の見直しの中で施策を反映させていきたい。

**(永井英夫：議長)**

- ・ 商店街の繁栄については、まちの賑わいを取り戻す上で非常に重要であり、そのためには、市民に地元で買い物をしていただくよう促していかなければならず、色々な場でPRしていく必要があると思われる。市でも、職員が約3,000人在籍しているが、地元で買い物をする、かつ、地元の施設を利用するなど、職員全体で地元を繁栄させていこうという意識を高める働きかけをしていただきたい。我々も様々な会合の場で徹底していきたいと考えている。基本計画に基づき、立派な施設を造ったとしても、市民や観光客等が来なければ、全て台無しになる恐れがある。

**(永澤大樹：北海道新幹線新函館開業対策推進機構)**

- ・ 2次交通に関しては、機構としてもきっちりと進めていくことを確認している。今回の計画の中で、路面電車の乗降人数が指標の一つに盛り込まれているが、このような指標が盛り込まれたにも拘わらず、現段階での基本計画の中には、直接、市電の利用増進に繋がるような施策が盛り込まれていない。先日の新聞で、電停のリニューアルについて報じられたが、屋根をかけるだけでは、市電の乗降客は増えないと思われる。この中心市街地内において市職員の通勤流動が一番多いが、この先、市職員が大量退職していくことは目に見えており、1人退職するだけで片道年間延べ250人、往復で500人の流動が失われていくこととなる。このような状況の中で、内閣府から路面電車の指標を活性化のための目標に据えるよう指導を受けたとのことであるが、この目標をクリアするための「誘導策」を打っていく必要があると思われる。
- ・ 参考までに、愛媛県松山市では、中心市街地内の百貨店で買い物をした市民に対し、自宅へ戻るために利用する市電の無料乗車券を渡しているほか、富山市では、市電沿線の花屋で花を買った市民を対象に、自宅へ戻るために利用する市電の運賃を割引くなど、直接的に市電の利用増進を図るための施策を中心市街地活性化のための事業として展開している。
- ・ 路面電車の指標を用いることについて、ハード面の整備はもちろん必要であるが、ソフト面で、直接、利用者を増やしていくような策を早急に打ち出すべきだと思う。これがひいては、中心市街地に足を運ぶきっかけとなり、呼び水にもなる。このような策を、基本計画の中に、新たに盛り込んでいく方向性があっても良いのではないかと。

**(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)**

- ・ 現時点で予定している市電に対する施策は、電停のリニューアルと、電停に情報端末を設置することにより電停自体を情報ステーション化し商業施設に結びつけていくといったことしかなく、直接的に利用増進を図るための対策は決まっていない。
- ・ 低床電車の導入については進めていきたいが、予算の関係もあり、なかなか増車することができないほか、100円電車についても市内で以前から検討しているが、当地域を取り巻く情勢は依然厳しく、決断できないでいる。
- ・ また、バスも含めた2次交通体系全体の中で、どのように市電を活用していくか、もう少し市内で議論した上で、施策を打ち出していきたい。正直、現時点では、間に合っていない。

**(木村一雄：函館市町会連合会)**

- ・ 現在、市街地は、人口のバランスから見ると郊外にどんどん広がっており、函館市全体としても人口減少が進んでいる中、市電、市バスを利用するにしても、旧市街地の人口だけで、利用率アップを図ることは厳しいだろう。本町・五稜郭から駅前・大門地区にかけての中心市街地以外に住んでいる住民が利用しやすい施策をどのように構築していくのか、正直見えてこない。

**(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)**

- ・ 昨年辺りからバスの路線が分かりづらい、バスと市電をどう組み合わせれば最も便利なのか、大体時間はどの位かかるのか、といった市民からの問い合わせが増えてきている。電車の路線についてであるが、市民にはある程度理解していただいている一方で、観光客には理解していただけておらず、ましてや、バスとの接続で目的地に行くには、非常に分かりづらいといった声が非常に多い。そういう視点に立ち、総合的に情報提供できる端末を作った上で、きっちりとPRしていきたい。利用者が減少するということは市民の足が無くなることに等しいので、本件については、市全体の施策として、優先的に取り組んでいくということを庁内でも議論している最中である。

**(木村一雄：函館市町会連合会)**

- ・ 観光客が五稜郭公園や五稜郭タワーなどに行くために五稜郭駅でよく降車する光景をみる。しかし、五稜郭駅で降車するよりも函館駅で降車し、電車に乗り換えた方が時間的には早いのではないかと思われる。よって、五稜郭と函館駅の時間的距離を明確に示してやるなど、交通アクセスの部分をより一層PRすることが必要ではないか。

**(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当)**

- ・ 観光客などから五稜郭駅のイメージが全然違うという指摘があり、現在、整備している情報端末等で乗換案内の情報を画面に表示される地図上で提供できるようにしたい。いずれは、スマホで無料ダウンロードし利用できるようにしたいと考えている。もし、好評であれば、商業施設にも情報端末の設置を検討していきたい。

**(片岡格：函館市副市長)**

- ・ 本協議会で、皆様より様々なご意見を頂戴し、さらにはご協議をいただきながら、ようやく基本計画の中身が固まってきた。皆様には心より感謝申し上げたい。本協議会で、商業者以外の皆様から出された意見についても市長に伝えたい。この基本計画を来年1月に認定申請し、3月までに認定を受けることができたなら、計画に盛り込んだ事業を具現化できるよう、積極的に進めていきたい。なお、来年度も引き続き、市として中心市街地活性化関連事業に対する予算付けを行うこととしている。

## 議案第2号 函館市中心市街地活性化協議会意見書（案）について

事務局より、別添資料に基づき説明がなされ、下記のとおり、質疑応答がなされた後、これを議場に諮ったところ、満場異議なく原案どおり承認された。

### （永澤大樹：北海道新幹線新函館開業対策推進機構）

- ・ 内閣府から指摘があった部分については、ある意味反省材料とも言える。この反省材料と前回の基本計画で未着手だった事業を、次の2期目の基本計画に、どのように反映させ落とし込んでいくかが重要であると思われる。
- ・ 先程の路面電車乗降人数の指標を達成するための具体的な施策等については、まだまだ議論すべきだし、来年以降、盛り込めるものは盛り込んでいただきたい。
- ・ 前回、前々回の総会でも議論したが、新幹線で訪れる観光客、団体客をどう迎え入れるか、どう駅前・大門地区及び本町・五稜郭地区をディスティネーション化していくかについては、意見書の中にもう少し網羅しても良いと思うが、あとは皆様の意見をお聞きしたい。
- ・ ほかに、商業者、いわゆる次世代の担い手が、今後この基本計画にどのように向き合い、どのように自分たちの事として取り組んでいけるようになるのか、地域を巻き込んでいく展開を期待したい。

### （木村健一：公立大学法人公立はこだて未来大学）

- ・ 意見書に関しては、これまでの議論を十分に踏まえており、大変まとまりのある内容となっているので、この形で良いかと思う。基本計画で、3つの指標を用いることにしているが、これをどう実現していくのか、今後、計画実現のためのプロセスを十分に考えていかなければならないと思う。路面電車乗降人数を指標に用いるとなると、いっそう1次交通に加え他の都市内交通機関との連携が計られる必要がある。
- ・ ロンドンでは、20世紀初頭には我々の街と全く同じ状況だったが、1931年にハリ・ベックが地下鉄路線図を位相図化した。現在、私たちのイメージは、東京の交通網は、山手線が丸くあり縦横に十字の路線という形状になっている。このような路線図をイメージできるのは、1964年の東京オリンピックの主催者が徹底的に宣伝し定着させたものだ。我々の街がどのような交通網を持ち、中心市街地がどこにあるのか、市民にも観光客にも理解していただけるような位相図（認知地図）が必要だ。要は、誰が見てもどこからでも函館の交通網が一目瞭然となるような簡潔な旗印を共有できて誰でも使えるようになると良い。
- ・ その中で、具体的な観光客入り込み数、歩行者通行量、路面電車乗降人数などの指標面に加え、鉄アレイ型といった途端にどこがどのような形状になっているのかが非常にイメージしやすくなるのではないかと思う。今後の課題の1つとして、位相図化、具体的には路線図の作成になるが、そういったことも、どこかの段階でアピールできるようなものになっていければと思う。これだけ方向性がはっきりとしてきたので、議論していただきたい。

(永澤大樹：北海道新幹線新函館開業対策推進機構)

- ・ 木村先生のご意見・ご指摘に対し、非常に共感するところがある。新聞やニュースでも最近注目されているのが北海道帯広の十勝バスの事例で、運送収入が戦後初めて増加に転じたのである。同バス会社では、低迷していた運送収入をアップさせるために、まずは、地域をドブ板のようにくまなく廻り「どうしてバスに乗らないのか」と尋ねることから始め、その結果、そもそも乗り方を知らないと回答した高齢者が非常に多かったことから、それを掘り起こし乗り方教室を開催したり、路線図を作成したほか、その方々が住んでいる地域から通じている路線がどのような公共施設、病院、商業施設に繋がっているのか分かるようなエリア別マップ等を製作・配布したのである。
- ・ 情報端末を置いたらそれで終わりではなく、情報端末を利用し何を提供していくかが最も重要である。市民や観光客が求めている移動（モビリティ）に関する情報をどのように分かりやすく提供していくかをしっかりと議論した上で、情報端末の利用方法を考えていただきたい。当然、新幹線対策推進機構内でも、2次交通体系や地域の公共交通については、市の企画部もメンバーに入っている中で、五稜郭駅で間違っ降車しないように「函館駅で乗り換えて市電やシャトルバスを使った方が五稜郭公園や五稜郭タワーには便利ですよ」という案内放送をJRに流していただくよう要望活動をしていくといったような議論は、既に始めているので、然るべき時に成果として上げていきたい。そういった議論を踏まえたアウトプットを、しっかりと経済部や企画部と連携し、知恵を絞りながら進めていきたい。

(永井英夫：議長)

- ・ 確かに、観光客等から非常に分かりづらいという声はよく聞く。電車だけの問題ではなくバスも含め、トータル的に全市として考えていかなければならない問題だと思う。この点に関しては、今後、しっかりと検討していかなければならない。

最後に、事務局より、函館市中心市街地活性化協議会が主催となり、来年2月22日に中心市街地活性化フォーラムを開催する旨の報告がなされた。

以 上